

第二回企業活性化研究分科会・議事録

<第2回 2007年4月7日 午後13:30~午後17:00 於:専修大学(神田校舎)・2号館>

1. 参加者:太田、山本、井端、古山、大野、飯高、渡辺、大柳、横山、星野、木村

2. テーマ 分科会の方向性の検討

3. 討議内容

3.1 研究についての方向性

- ・研究会として倒産の概念、活性化の概念を統一する。
- ・原因分析を行い再生の流れを一般化する。
- ・各分野の専門者がそれぞれ発表し知識レベルを統一する。

3.2 太田先生による「中小企業の再生マニュアル」について

・報告者:太田先生

中小企業による再生のフロー

・報告内容

経営困難-危機の発生と再建のフローとして、どのように経営危機に陥るか及び経営危機からどのように経営再建を果たすのかということ、配布資料の図表を使い、以下の2点について説明していただきました。

- 経営危機の発生として、市場要因、競争力要因、経営資源機能と大きく三つに分類し、その要因ごとに経営悪化がどのように進み経営危機に陥るのか。
- 経営再建のフローについてもそれぞれの要因ごとに、市場要因であれば市場選択、競争力要因であれば競争力強化、経営資源要因であれば経営資源強化を行っていく必要がある。

3.3 飯高先生による報告

・報告者:飯高氏(楽天証券経済研究所)

リスクマネジメントと企業活性化について

・報告内容

本研究分科会が今後活動していくにあたり、リスクの定義と活性化の理解を深める研究及び勉強についての提案をしていただきました。はじめに、リスクとは、どういう企業を対象に、どういうことがリスクなのかという疑問を提示し、それに関する議論をしました。

次に、企業の活性化についての研究については、研究対象とする経営陣の状況、企業の事業構成等に一定の条件でスクリーニングを行い研究対象とすること、また同族企業に対しては、アンケート調査及び聞き取り調査を行い分析していくことなどの提案がなされました。

理論的学習については、メンバーの知識レベル統一のために上場企業を中心に事例分析を行い、リスクマネジメントや倒産、活性化について学んでいき、今後の分科会の方向性を決めていく必要性を提案していただきました。

3.4 その他

分科会の成果として、2年後の企業活性化とリスクマネジメントに関する冊子の出版を目指して活動していくことが合意されました。

(文責：菅原智久 宮川宏)